

1 (仮称)広瀬 ideal 高等学校

(1)スクール・ミッション(社会的役割等)

(仮称)宮城県広瀬ideal高等学校は、急激に変化する社会の中で多様化している生徒の興味・関心や進路希望に対応するため、また、学校生活や学習に困難さを抱える生徒を含む、多様な入学動機や学習歴を持つ生徒の学び直し等の課題に対応するため、学習面、情動面双方で個別最適化の視点を重視し、個に応じた多様な学びを提供するとともに、学習者中心の支援を行います。これにより、生徒の自律的な学びを実現し、自己の特性を生かしながら社会と調和して行動する、社会的に自立できる力を育成します。

(2)スクール・ポリシー(三つの方針)

①グラデュエーション・ポリシー

(育成を目指す資質・能力に関する方針)

次のような「自律的学習者として必要な資質・能力」及び「社会的自立に必要な資質・能力」の育成を目指します。

- 学習面、生活面双方での、自己効力感及び自己有用感
- 基礎的基本的な知識及び技能と、それらを適切に活用できる思考力、判断力、表現力
- よりよく問題を解決するために、自ら課題を見出し、主体的に考え、判断し、行動しようとする力
- 学びの在り方を自らが選択し、自律的に取り組み、自分の生活をデザインする、自身で判断し決定する力
- 他と協調し社会を形成していくという自覚と、多様性理解・自己尊重に支えられた協働する力
- 変化する社会の中で困難に直面しても、自分らしく前向きに対応できる力

②カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成及び実施に関する方針)

- 学年の区分を設けず、必修科目を含む74単位以上の単位修得で卒業することができる教育課程とします。
- 自身の生活スタイル、興味・関心、適性、進路希望等に応じて、生徒が主体的に教科・科目や学習時間帯を選択できる、柔軟な教育課程とします。
- ICTを活用した学習や授業により、個別最適な学びの実践を図ります。
- 学び直しに対応した科目、習熟度別科目、将来の社会的自立に有用な実践的な学校設定科目等を設定します。
- 単位制高等学校としての多様な科目の設置に加え、様々な学校外の学修を卒業に必要な単位として認定する、多様な学びの実現を図ります。

③アドミッション・ポリシー

(入学者の受入れに関する方針)

- 大学進学等の進路希望を実現するために、自分で計画しながら学びたい生徒
- 多様な選択肢の中から、興味関心や適性に合わせ自己決定し、柔軟に学びたい生徒
- 芸術活動やスポーツ活動等のために、自由な時間を持ちながら学びたい生徒
- 集団生活が苦手だったり、対人関係等で不安を感じたりしているが、自分のペースで学びたい生徒
- 学ぶ意欲を持っており、基礎から学び直しをしたい生徒

(3) 選抜方法

学校名	(仮称) 広瀬 ideal 高等学校	課程	全日制	学科 (コース・部)	普通科	募集定員	200人
-----	--------------------	----	-----	---------------	-----	------	------

第一次募集 (選抜方法等)

選抜順序	ideal選抜 ⇒ 共通選抜
第2 志望とすることができる学科・コース	

共 通 選 抜

募集人数	20 人 (募集定員の 10 %)
学力検査 : 調査書	5 : 5
学力検査点 (500点満点) と調査書点 (195点満点) の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は 5 : 5 とする。	

ideal 選 抜

募集人数		180 人 （募集定員の 90 %）			
全ての志願者について、意欲を多面的に見るために個人面接を行い、以下の方式により総合的に選抜する。					
配点		面 接	調 査 書	学力検査	合 計
	面接重視方式	1 0 0 点	－	－	1 0 0 点
	調査書重視方式	2 7 点 *1	1 3 5 点 *2	－	1 6 2 点
	学力検査重視方式	1 0 0 点	－	5 0 0 点 *3	6 0 0 点
*1 1 0 0 点満点を 2 7 点満点に圧縮する。					
*2 全学年・全教科の評定を 1 . 0 倍にする。					
*3 全教科の得点を 1 . 0 倍にする。					
選抜方法	・ 面接重視方式は、面接の得点を基に、調査書の記載事項（評定以外の特別活動の記録などの資料。以下同じ）も用いて総合的に審査し、選抜する。 ・ 調査書重視方式は、調査書点と面接の得点を基に、調査書の記載事項も用いて総合的に審査し、選抜する。 ・ 学力検査重視方式は、学力検査点と面接の得点を基に、調査書の記載事項も用いて総合的に審査し、選抜する。				

面接・実技・作文のうち実施するもの	面接	1 形態 : 個人面接 2 時間 : 15分程度 3 内容 : 出願時に提出する志願理由書を基に、以下の質問を行う。 (1) 自分自身について (2) 志望動機について (3) 入学後の生活について (4) その他 4 観点 : (1) 意欲・目的意識56点、(2) 自己理解30点、(3) 学校理解14点
※面接については、2日目に実施する。		

第二次募集 (選抜方法等)

配点	1 調査書点	0 点	合計
	評定は用いない		175点
	2 学力検査点	75 点	
	国語、数学、英語 ; 各教科 2 5 点満点		
配点	3 面接	100 点	175点
	1 形態：個人面接		
	2 時間：15分程度		
	3 内容：第一次募集と同じ		
配点	4 観点：第一次募集と同じ		175点
選抜方法		上記「配点」を基に、総合的に審査し、選抜する。	

2 (仮称)大崎創成高等学校

(1)スクール・ミッション(社会的役割等)

(仮称)宮城県大崎創成高等学校は、食をテーマとする専門教育や各教科間の連携・協働による、地域資源を利活用した地域ブランドの創出や魅力化などの特色ある取組をとおして、課題設定から解決まで主体的に取り組む力を身に付け、社会的・職業的自立に必要な能力を養うとともに、生徒の多様な個性の伸長を図り、地域の活性化に貢献する人材を育成します。

(2)スクール・ポリシー(三つの方針)

①グラデュエーション・ポリシー

(育成を目指す資質・能力に関する方針)

- 専門性を活かし、各分野でよりよい社会の創造に貢献する人材を育成します。
- 多様性を受容し、様々な人と協働して新たな価値を創造する人材を育成します。
- 自ら考え行動し、課題の解決に向けて意欲的に取り組む人材を育成します。
- 地域との連携・協働をとおして郷土に対する誇りを持ち、地域の発展に貢献できる人材を育成します。

②カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成及び実施に関する方針)

○個別最適な学びの推進

多様な生徒の進路実現に向けて、単位制による多彩な学校設定教科・科目により、少人数指導にも対応したカリキュラムを実践します。

○協働的な学びの推進

「農業」「家庭」「商業」の教科等横断的な学びや、地域との連携により、6次産業化による地域ブランドの創出に向けた学びの実現を図ります。

また、「高校生カフェ」の企画・運営により、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、産学官連携をとおした探究学習を実践します。

○体験的な学びの推進

大崎地域をフィールドとして、世界農業遺産に関する学習や、学校間連携、世代間交流等により、生きた学びを実践します。

③アドミッション・ポリシー

(入学者の受入れに関する方針)

- 入学後の目標が明確であり、学校生活に意欲的に取り組む生徒
- 専門的な知識や技術の習得に努めるなど、学習に意欲的に取り組む生徒
- 地域や他者と協働して、地域社会の発展に貢献することへの意欲がある生徒
- 高校生カフェ、ボランティア活動、探究活動に前向きに取り組む生徒

(3) 選抜方法

学校名	(仮称) 大崎創成高等学校	課程	全日制	学科 (コース・部)	(仮称) アグリ・フード・ビジネス科	募集定員	160人
第一次募集（選抜方法等）							
選抜順序	共通選抜			⇒	特色選抜		
第2志望とすることができる学科・コース							
共通選抜							
募集人数	96人			(募集定員の 60 %)			
学力検査：調査書	5：5						
学力検査点（500点満点）と調査書点（195点満点）の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は5：5とする。							
特色選抜							
募集人数	64人			(募集定員の 40 %)			
配点	1 調査書	97.5	点				合計
	国語、数学、社会、英語、理科			：全学年の評定を0.5倍にする。			547.5点
	音楽、美術、保健体育、技術家庭			：全学年の評定を1.0倍にする。			
	2 学力検査	250	点				
国語、数学、社会、英語、理科			：得点を0.5倍にする。				
	3 面接	200	点				
選抜方法	・ 審査は、学力検査点、調査書点及び面接の得点の合計点上位の者から、特色選抜で選抜する64人の150%に含まれる者（96人）を対象として行う。 ・ 学力検査点、調査書点及び面接の得点を合計した点数を基に、調査書の記載事項（評定以外の特別活動の記録などの資料）も用いて、総合的に審査する。						
面接・実技・作文のうち実施するもの	面接	1 形態：個人面接 2 時間：15分程度 3 内容：(1)自分自身について (2)志望動機 (3)高校での学習について (4)高校生カフェ等で取り組みたいこと (5)将来の進路希望 4 観点：(1)表現力等、(2)態度					
	※面接については、2日目に実施する						

第二次募集（選抜方法等）				
配点	1 調査書点 112.5 点		合計	412.5点
	国語、数学、英語 : 全学年の評定を0.5倍にする。			
	社会、理科、音楽、美術、保健体育、技術家庭 : 全学年の評定を1.0倍にする。			
	2 学力検査点 150 点			
	国語、数学、英語 : 各教科50点満点			
選抜方法	3 面接 150 点			
	1 形態：個人面接			
	2 時間：15分程度			
	3 内容：第一次募集と同じ			
	4 観点：第一次募集と同じ			
選抜方法		上記「配点」を基に、総合的に審査し、選抜する。		

1 普通科改革(新しい普通科の設置)について

(1) 普通科改革の背景・意義

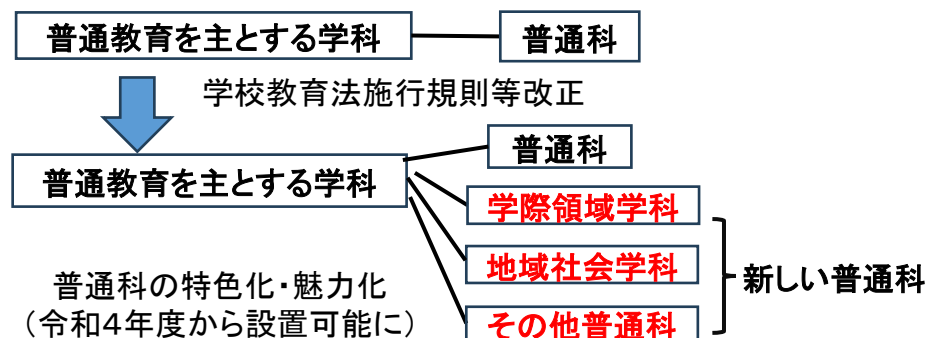
○社会経済の有り様(産業構造や社会システムの急激な変化・少子化の進行)を踏まえた高校教育の検討の必要性

- ・高等教育機関や実社会との接続機能を果たす。
- ・生徒が多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切りひらき、持続可能な社会の創り手となることを後押しする。

⇒全ての高校に、生徒の可能性及び能力を最大限に伸長するための特色化・魅力化が求められている。

○普通科は、「普通」の名称から一斉的・画一的な学びの印象を持たれやすいが、普通科についても、生徒の興味・関心や適性、地域の実情に応じて学校ごとに特色化・魅力化を図る。

(2) 新しい普通科



- 学際領域学科**: 学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の学びに取り組む学科
- 地域社会学科**: 地域社会が有する課題や魅力に着目し、実践的で特色・魅力ある学びに取り組む学科
- その他普通科**: 普通教育の教育内容であってスクール・ミッションに基づき特色・魅力ある学びに取り組む学科

2 文部科学省普通科改革支援事業の指定(令和6～7年度)

- 中新田高等学校が全国36のモデル校の1つに指定される。
- 加美町等の地域の関係機関との連携・協働体制の構築
- 学校の特色化・魅力化を図る学校設定教科「地域創造学」の開設

3 学校の特色化・魅力化を図る学校設定教科「地域創造学」

- 加美町の地域課題や魅力を探究し、発信する教科として開設
- 地域産業Ⅰ、地域産業Ⅱ、地域スポーツ学Ⅰ、地域スポーツ学Ⅱ、地域防災学Ⅰ、地域防災学Ⅱの6科目を開設

3
年
生

○地域産業Ⅱ

・自らが設定した地域課題に対する解決策を考え、実践し、社会に参画する意識を向上させます。

○地域スポーツ学Ⅱ

・スポーツイベントの企画・運営に参画し、スポーツの在り方を探究し、地域振興につなげます。

○地域防災学Ⅱ

・幼稚園児・小学生を対象にした防災学習に取り組み、地域の防災意識の向上につなげていきます。

2
年
生

○地域産業Ⅰ

・加美町からのミッションや地域課題の解決法を探究し、提言をまとめ、発表していきます。

○地域スポーツ学Ⅰ

・地域スポーツ(カヌー・ロードバイク等)に挑戦するとともに、スポーツイベントの運営を支援します。

○地域防災学Ⅰ

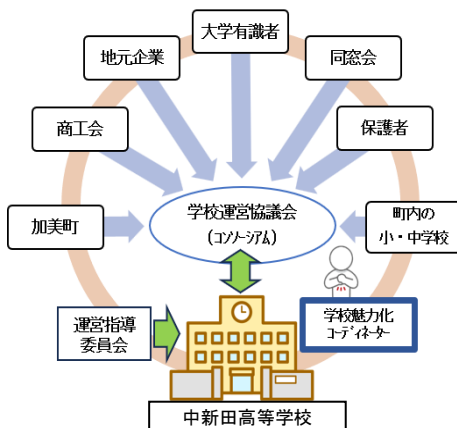
・様々な自然災害について学ぶとともに、地域と連携しながら、防災の実際を学びます。

1
年
生

○総合的な探究の時間「加美町探究」

・加美町の自然や産業についてフィールドワークを行って探究の方法を学び、「地域創造学」の学びにつなげます。

4 新しい普通科の設置に向けた関係機関との連携・協働体制



○学校運営協議会が、新しい普通科を支援するコンソーシアムを兼ね、教育活動へ助言と、「地域創造学」の実践に参画する。

○学校魅力化コーディネーターが関係機関をつないで連携・協働体制を構築し、「地域創造学」や「総合的な探究の時間」における探究活動をコーディネートする。

5 中新田高等学校の学科改編(新しい普通科の設置)

【現在】普通科3学級 ⇒ 【令和9年度】(仮称)未来創造科3学級
(地域社会学科のカテゴリー)

中新田高等学校では、「100年つづくまち創り」を目標とした探究的な学びをとおして、地域への思いと、地域活性化の熱意をもった人材を、地域と共に創ります。

○育成する力

- ・自ら見つけ、探究し、発信する力
- ・自ら活動し、主体的に取り組む力
- ・自ら考え、判断し、行動する力

※(仮称)未来創造科での学びは、社会で求められる力を育成します。

新しい普通科
「未来創造科」の
設置

中新田高等学校の
特色化・魅力化

加美町及び
地域社会の
魅力創出へ